

信州の環境にやさしい農産物認証取得者事例調査票（野菜用）

認証取得者氏名	関川 晃	認証番号	50-00430	地事名	長野
地域（標高）	長野市（350m）				
土壌（土性）	褐色低地土				

項目	生産計画の内容		補足メモ
1 栽培 状況	(1) 品目	きゅうり （品種：「マジカ1号」、「クレージュ」、「兼備2号」）	「マジカ1号」：褐斑病に強い。 「クレージュ」：うどんこ病、褐斑病に強い。 「兼備2号」：うどんこ病に強い。
	(2) 作型名	①半促成加温作型、②ハウス抑制作型	
	(3) 面積	18 a	
	(4) 栽培戸数又は労働力	1 戸	
	(5) 栽培期間	平成28年2月～6月、7月～11月	
	(6) 収穫期間	平成28年3月6日～6月30日、8月15日～11月28日（予定）	
	(7) 収穫量 (18aあたり)	H27実績 25,000 kg （うち出荷量：25,000 kg） H28計画 26,000 kg （うち出荷量：26,000 kg）	

2 栽培 方法	(1) 土づくり	土壌診断に応じた堆肥や有機配合肥料等を施用するほか、有機物分解促進（微生物）資材を投入し、土壌改良を図っている。																																																																			
	(2) 播種	（購入苗のため省略）																																																																			
	(3) 育苗期間	（購入苗のため省略）																																																																			
	(4) 定植	平成28年2月6日、7月18日																																																																			
	(5) 肥培管理	<p>化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年の土壌診断実施と診断に基づく施肥設計 ・ 堆肥と有機肥料を主体とした施肥（微生物資材等も施用） <p>技術を導入する際の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土壌診断結果に基づき不足する土壌養分だけを補うよう、有機肥料を主体として施肥設計 <p>肥料の施用内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料の種類</th> <th rowspan="2">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="3">成分量 (kg)</th> </tr> <tr> <th>窒素</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プレミアムさくら642(元肥)</td> <td>240</td> <td>14.4</td> <td>0.0</td> <td>9.6</td> <td>4.8</td> </tr> <tr> <td>すみじい堆肥(元肥)</td> <td>2,667</td> <td>8.08</td> <td>0.0</td> <td>4.8</td> <td>7.68</td> </tr> <tr> <td>旨味ペレット(元肥)</td> <td>60</td> <td>0.9</td> <td>0.0</td> <td>1.2</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>糖蜜発酵ぼかし(元肥)</td> <td>60</td> <td>1.14</td> <td>0.0</td> <td>1.8</td> <td>0.78</td> </tr> <tr> <td>ツバキング(元肥)</td> <td>40</td> <td>0.6</td> <td>0.0</td> <td>0.12</td> <td>1.24</td> </tr> <tr> <td>LPコートS100(元肥)</td> <td>10</td> <td>4.1</td> <td>4.1</td> <td>0</td> <td>0.0</td> </tr> <tr> <td>多木有機液肥11号(追肥)</td> <td>50</td> <td>6.0</td> <td>3.6</td> <td>1.5</td> <td>2.0</td> </tr> <tr> <td>なたね粕(追肥)</td> <td>80</td> <td>4.24</td> <td>0</td> <td>1.6</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,207</td> <td>39.46</td> <td>7.70</td> <td>20.62</td> <td>18.50</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>化学由来窒素成分量 (kg/10a)</td> <td>7.70</td> </tr> <tr> <td>地区慣行施肥量 (kg/10a)</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>低減率 (%)</td> <td>80.8%</td> </tr> </table>	肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量 (kg)			窒素	リン酸	加里	プレミアムさくら642(元肥)	240	14.4	0.0	9.6	4.8	すみじい堆肥(元肥)	2,667	8.08	0.0	4.8	7.68	旨味ペレット(元肥)	60	0.9	0.0	1.2	1.2	糖蜜発酵ぼかし(元肥)	60	1.14	0.0	1.8	0.78	ツバキング(元肥)	40	0.6	0.0	0.12	1.24	LPコートS100(元肥)	10	4.1	4.1	0	0.0	多木有機液肥11号(追肥)	50	6.0	3.6	1.5	2.0	なたね粕(追肥)	80	4.24	0	1.6	0.8	合計	3,207	39.46	7.70	20.62	18.50	化学由来窒素成分量 (kg/10a)	7.70	地区慣行施肥量 (kg/10a)	40	低減率 (%)
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量 (kg)																																																																			
		窒素	リン酸	加里																																																																	
プレミアムさくら642(元肥)	240	14.4	0.0	9.6	4.8																																																																
すみじい堆肥(元肥)	2,667	8.08	0.0	4.8	7.68																																																																
旨味ペレット(元肥)	60	0.9	0.0	1.2	1.2																																																																
糖蜜発酵ぼかし(元肥)	60	1.14	0.0	1.8	0.78																																																																
ツバキング(元肥)	40	0.6	0.0	0.12	1.24																																																																
LPコートS100(元肥)	10	4.1	4.1	0	0.0																																																																
多木有機液肥11号(追肥)	50	6.0	3.6	1.5	2.0																																																																
なたね粕(追肥)	80	4.24	0	1.6	0.8																																																																
合計	3,207	39.46	7.70	20.62	18.50																																																																
化学由来窒素成分量 (kg/10a)	7.70																																																																				
地区慣行施肥量 (kg/10a)	40																																																																				
低減率 (%)	80.8%																																																																				

(6) 病害虫防除

化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術

- ・ カウント対象外の天然由来農薬へシフトするとともに、微生物農薬を使用
- ・ アザミウマ忌避効果のある防虫ネット、UVカットフィルム、粘着シート等使用

技術を導入する際の考え方

- ・ I P M (総合的病害虫・雑草管理) により化学農薬だけに頼らない、生物・物理的防除も併用した防除に配慮

病害虫防除の内容 ①対象作物：きゅうり（半促成加温作型）

	使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫	
殺菌剤	1 ダコニール1000	1000	1	1	1				うどんこ病、べと病他	
	2 ケミヘル	1000	2	2	4	4			うどんこ病、灰色かび病	
	3 ベルコートフロアブル	2000	1	1	1				菌核病、褐斑病他	
	4 園芸ボルドー	800	2	1	2	2			うどんこ病、炭疽病他	
	5 カリグリーン	800	1	1	1	1			うどんこ病、さび病他	
	6 アフェットフロアブル	2000	1	1	1				うどんこ病、菌核病他	
	7 Zボルドー	500	1	1	1	1			褐斑細菌病、黒腐病他	
	8 フルピカフロアブル	3000	1	1	1				褐斑病、灰色かび病他	
	9 スミブレンド水和剤	1500	2	1	2		1		灰色かび病、褐斑病他	
殺虫剤	① ネマキック粒剤	20kg/10a	1	1	1				ネコフセンチュウ	
	② チェス顆粒水和剤	3000	1	1	1			32	アブラムシ類、コジラミ類	
	③ コロマイト乳剤	1000	1	1	1	1			ハダニ類、コジラミ類他	
	④ モベントフロアブル	2000	1	1	1				アザミウマ類、アブラムシ類他	
	⑤ サンクリスタル乳剤	300	1	1	1	1			アブラムシ類、コジラミ類他	
	⑥ ポタニガードES	500	1	1	1	1			アザミウマ類、アブラムシ類他	
	⑦ ウララDF	2000	1	1	1				コジラミ類、アブラムシ類	
	⑧ スピノエース顆粒水和剤	5000	1	1	1	1			ハモグリバエ類、アザミウマ類他	
	⑨ ハツパ乳剤	200	1	1	1	1			ハダニ類	
	⑩ ダニサラバフロアブル	1000	1	1	1				ハダニ類	
	⑪ コテツフロアブル	2000	1	1	1				ミナキイロアザミウマ、ハダニ類他	
	⑫ デルフィン顆粒水和剤	1000	1	1	1	1			オオタバコカ、ハスモンヨトウ他	
除草剤								1		
植調剤								0		
					合計	26	14	1	33	

※農薬名に番号を付記

農薬の使用回数	12
地区慣行農薬使用回数	34
削減率(%)	64.7%

病害虫防除の内容 ②対象作物：きゅうり（ハウス抑制作型）

	使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫	
殺菌剤	1 ダコニール1000	1000	1	1	1				うどんこ病、べと病他	
	2 ケミヘル	1000	2	2	4	4			うどんこ病、灰色かび病	
	3 ベフドー水和剤	500	2	1	2	1			灰色かび病、炭疽病他	
	4 フルピカフロアブル	2000	1	1	1				褐斑病、灰色かび病他	
	5 プロパティフロアブル	3000	1	1	1				うどんこ病	
	6 園芸ボルドー	800	2	2	4	4			うどんこ病、炭疽病他	
	5 トップジンM水和剤	1500	1	1	1				菌核病、黒星病他	
	6 ベトファイター顆粒水和剤	2000	2	1	2		1		べと病	
	7 Zボルドー	500	1	2	2	2			褐斑細菌病、黒腐病他	
8 スミブレンド水和剤	1500	2	1	2		1		灰色かび病、褐斑病他		
9 ジーファイン水和剤	1000	2	1	2	2			斑点細菌病、灰色かび病		
殺虫剤	① ネマキック粒剤	20kg/10a	1	1	1				ネコブセンチュウ	
	② プリロツソ粒剤	2g/株	1	1	1			32.2	アブラムシ類、アザミウマ類他	
	③ モベントフロアブル	2000	1	1	1				アザミウマ類、アブラムシ類他	
	④ コロマイト乳剤	1000	1	1	1	1			ハダニ類、コジラミ類他	
	⑤ デルフィン顆粒水和剤	1000	1	2	2	2			オオタバコカ、ハスモンヨトウ他	
	⑥ チェス顆粒水和剤	3000	1	1	1				アブラムシ類、コジラミ類	
	⑦ コテツフロアブル	2000	1	1	1				ミナキイロアザミウマ、ハダニ類他	
	⑧ ボタニガードES	500	1	2	2	2			アザミウマ類、アブラムシ類他	
	⑨ サンクリスタル乳剤	300	1	1	1	1			アブラムシ類、コジラミ類他	
	⑩ ウララDF	2000	1	1	1				コジラミ類、アブラムシ類	
	⑪ スピノエース顆粒水和剤	5000	1	1	1	1			ハモグリバエ類、アザミウマ類他	
	⑫ サンマイトフロアブル	1000	1	1	1				アブラムシ類、コジラミ類他	
	⑬ ハツパ乳剤	200	1	1	1	1			ハダニ類	
	⑭ アルバリン顆粒水溶剤	2000	1	1	1				アブラムシ類、コジラミ類他	
除草剤								1		
植調剤								0		
※農薬名に番号を付記					合計	38	21	2	33.2	

農薬の使用回数	17
地区慣行農薬使用回数	35.2
削減率(%)	51.7%

(7) 雑草防除 畝面へのマルチ及び通路への敷きわらにより雑草を防止。

(8) 収量の状況 前年より収量多い見込み。

(9) その他特記事項

3 販 売 状 況	(1) 主な販売地域	長野地域が主。
	(2) 販売方法	J A (市場流通)、直売所、卸売業者、飲食店、給食弁当業者、個人
	(3) 県認証の活用方法	商品のラベルに印刷するほか、ポップ広告や名刺に印刷
	(4) 実需者や消費者の反応、メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全で美味しい農産物を求めるお客様が多く、「環境にやさしい農産物認証」はアピールする手段として非常に有効であり、商談を優位に進められる。 ・直売所においても、POPや農産物の包装類に貼付する認証マークシールのおかげで売れ行きが好調である。 ・売上が増加し、経済的にも楽になってきた。H25年売上額35%増加。(対前年比)

始めた	農産物に付加価値を付けるアイテムとして、「信州の環境にやさしい農産物認証制度」等があることを知り、長野農業改良普及センター、長野地方事務所農政課、県農業技術課により指導をもらいながら、取得に向け取り組んだ。
コメント	「信州の環境にやさしい農産物認証」は「こだわりの農産物」をアピールするのに有効な手段であり、また、自然環境を大切にすることは、社会人・農業人として当たり前のことでもあり、これからの農業に不可欠な制度だと思います。もっと多くの方に取得していただき、長野県の農業がさらに発展することを望みます。

<栽培暦>

作業	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月																
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下														
栽培管理				◎			■									◎			■																															
病害虫防除	①						1	2	3	4				6	5	7	8	2	9				①	②		1	2	3	4	3	5	4	6	6	5	4	8	12	6	2	7									
除草			マルチ被覆																			マルチ被覆																												
土づくり施肥	12月後半から土づくり、1月に土壌改良剤、肥料等の施肥を行っている。																																																	

注) ◎ : 定植時期、■ : 収穫時期

ここがポイント！

- ・農薬は、カウント対象外農薬へのシフトにより化学合成農薬の使用量の削減を図っているほか、静電噴口の使用により散布量削減及び散布ムラ低減等図っている。
- ・土壌に住む優良な菌を生かす「菌耕農法」＝土壌消毒をしないことで、土壌消毒剤を削減している。
- ・耐病性品種の導入、台木の使用及び汚染された残さ処理により、病原菌発生のリスク軽減を図っている。
- ・ほ場周辺の除草の徹底により、害虫発生のリスク軽減図っている。(害虫のすみかを作らせない。)
- ・椿油粕(サポニン効果)によるナメクジとモグラの忌避効果があると聞き、使用している。
- ・「すみじい堆肥」と微生物資材「アスカマン21」の投入による土壌の団粒化と微生物多様性の向上から、土壌病害発生のリスク軽減。
- ・有機主体の肥料施用と化学肥料は緩効性肥料を使用することで、化学肥料施用量の削減を図っている。
- ・野菜残さは堆肥屋さん(すみじい堆肥)へ供給し、再び堆肥にして循環型農業を実践している。

<栽培状況等の写真>



赤色防虫ネット



黄色粘着版（発生予察用 兼 補殺用）



生育状況①



生育状況②